



○「四国の魅力①」 ひょうたん島周遊船から徳島市の眉山（びざん）を臨む⇒

10月に本校2年生が四国に行きます。台湾研修旅行の予定でしたが、コロナ下のため今年も実現することができませんでした。しかし、一昨年度は全面中止、昨年度は県内の日帰り2日間での実施であったことを考えると、県外2泊3日の研修旅行ができること、尽力いただいた関係教職員や何度も調整していただいた旅行者の方、生徒、保護者の皆様の理解に深く感謝するばかりです。



私をはじめ四国に足を踏み入れたのは大学受験の時でした。旅行が今ほど盛んでなく、中学校の修学旅行で新幹線に乗って感動した時代で、高校では研修旅行もなく、少なくとも私は県外と言えば都会地に行くことがほとんどでした。

出雲から高知までの道のりは長く、岡山まで列車で4時間、そこから宇高連絡船の出る港のある宇野までさらに1時間。連絡船に1時間乗ったあと、高松から高知までさらに列車で4時間、合計10時間以上かかりました。1日かけてやっと到着する感じてした。それが、今や高速道路を使えば、高知までその半分の時間もかけず行くことができます。本当に便利な時代になりました。

はじめて四国の高松に着いた時は、空が高く感じたことを覚えています。また、高松駅が最終終着駅で一畑電鉄の大社駅のような感じてあったこと、讃岐平野の山々が出雲平野で見る山並みの感じと違うことなど、受験の緊張感も忘れ、見るものすべてに関心が行き、最初だけは10時間以上の道のりも長く感じなかったことを覚えています。

今回の研修先一つでもある香川県の琴平町にある金比羅宮に行ったのは大学4回生になった時でした。夜明け前に高知を出て、金比羅さんに着いたのが朝8時くらいでした。「こんぴらさん」で有名な金刀比羅宮は、古来より海の神様、大漁祈願・商売繁盛などの神様として信仰をあつめてきた神社です。参道口から御本宮までは785段、奥社までは1,368段の石段があることでも有名です。お金を出せば駕籠舁（かごかき）さんが御本宮まで運んでくれます。その駕籠に○が3つ、4つ書いてあるのを見てなんだろうと思いました。答えはすぐわかりました。朝から何回お客を上まで運んだかの印だったのです。私はといえば、785段で疲労困憊。2度目に訪れたのがコロナの広がる直前の令和2年1月。その時はじめて1,368段登って奥社まで行きました。

四国と言えば、お遍路さんも有名です。阿波（徳島県）の1番札所を最初に、弘法大師（空海）ゆかりの八十八ヶ所の霊場を旅する人のことです。四国ではあちらこちらで目にします。お遍路さんがかぶっている菅笠（すげがさ）には、「同行二人」の文字が書かれています。一人で歩いている人もいるのにどういう意味だろうと不思議に思っていました。一人は自分、そしてもう一人は弘法大師ということの意味すると知ったのは教員になってからでした。弘法大師様と二人で巡礼の道を歩く、それがお遍路なのです。4回生になって卒業論文や就職活動・試験の合間に気分転換をかねて少しずつ八十八ヶ所巡りをしましたが、結局半分もいかず、もう35年以上中断中です……。